

政策番号	12	政策分野	国際化
------	----	------	-----

基本方針	1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。
------	--

担当局	総合企画局	共管局	産業観光局
-----	-------	-----	-------

政策に関する主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン 未来・京都観光振興計画2010+5 京都市MICE戦略
----------------	---

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	24 年度	25 年度	26年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	京都市国際交流会館登録ボランティア数(人)	421	800	a	a	478	591	570	103.7%	a
2	コンベンション開催件数(件)	157	-	c	b	196	177	250	70.8%	b
				b	a					a

施策の客観指標評価		参照 ページ	評価		
施策番号	施策名		24年度	25年度	26年度
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信(1指標)	137	d	a	d
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進(2指標)	139	c	a	a
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進(2指標)	141	b	b	b
(3施策平均)			c	a	b

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)		24年度	25年度	26年度
		-	-	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		24年度	25年度	26年度
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	b	b	a
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	b	b	a
3	国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。	c	c	c
4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	b	b	b
市民生活実感調査総合評価		b	b	a

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

24年度		25年度		26年度	
順位	%	順位	%	順位	%
19	11.8%	20	79.0%	20	80.9%

3 総合評価

A	政策の目的が十分に達成されている		
<p>【客観指標】●国際交流を支えるボランティア数は、ボランティア活動の機会提供や研修をはじめとした人材育成へのサポートにより、目標値を達成したことから、3年連続でa評価となり高い評価で安定している。</p> <p>●コンベンション開催件数は、国際会議は基本的に開催周期があること、また大型会議施設の大規模改修工事などのマイナス要因が重なる中で、直近の5年間では平成24年度に次いで2番目の開催件数となった。平成23年の震災の影響を超えて、順調に回復、好調に推移しているため、b→b評価と安定していると考えられる。</p> <p>【市民の実感】●京都の魅力や受入環境及び京都の国際社会への貢献については、b→a評価に改善された。これは、文化遺産や大学の集積といった京都の強みや魅力が市民に認識された結果によるものと考えられる。</p> <p>●相互理解については、3年連続c評価が続いている。市民が外国籍市民等やその文化にふれる機会は拡充していると考えられるが、外国籍市民等が身近な地域社会で活躍し、多文化が定着していると多くの方が感じる段階には至っていないと考えられる。</p> <p>●国際交流については、3年連続b評価で安定している。これは、市民・民間レベルでの国際交流がさまざまな形で行われ、それが広く市民に認識されていることによるものと考えられる。</p> <p>【総括】客観指標総合評価でのa評価に加え、市民生活実感総合評価での改善により、総合評価は昨年度のB評価からA評価に改善された。しかしながら、個々の施策での客観指標評価では改善の余地が見られるため、引き続き各施策に係る取組を推進する必要があると考えられる。</p>	25年度	B	
	24年度	B	

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	C	B	B	138
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	C	A	A	140
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	C	C	C	142

<今後の方向性>

- 世界の人々を引き寄せるまちの実現に向け、文化、産業、大学、環境等、京都が持つ魅力を世界に発信するとともに、安全情報をはじめとした各種の行政情報などの多言語化、MICE推進体制の強化、国際交流の拠点・コンベンション機能の充実や受入環境の整備を推進する。
- 国際社会に大きく貢献するとともに、市民、民間レベルでの国際交流の定着に向け、歴史都市・京都が積み重ねてきた先進的取組の発信や友好交流都市(姉妹都市・パートナーシティ)をはじめとした各都市等との国際交流・国際協力を推進する。
- 多文化が息づくまちの実現に向け、地域での多文化交流、外国籍市民等へ向けた情報提供などにより、外国籍市民等が暮らしやすく、また地域社会で活躍できるまちづくりを推進する。
- 京都が蓄積してきた文化等を生かし、住む人にも、訪れる人にも魅力的な国際都市を目指す。

政策名	12	国際化
-----	----	-----

指標名	京都市国際交流会館登録ボランティア数（人）
-----	-----------------------

担当部室	国際化推進室	連絡先	222-3072
------	--------	-----	----------

1 指標の説明

京都市国際交流会館に登録するボランティアの数

2 指標の意味

住むひとにも訪れるひとにも魅力的な国際都市への進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：（公財）京都市国際交流協会調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	421	800	過去最高値（平成20年度406人）から倍増

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	478	591	113人増	570	過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（年32.83333人増加）	103.7%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、市民や民間団体の自発的な活動意思によるところが大きいことから、80%以上をa評価とし、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

指標名	コンベンション開催件数（件）
-----	----------------

担当部室	観光MICE推進室	連絡先	746-2255
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議の開催件数

2 指標の意味

経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」、日本政府観光局「国際会議統計」

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	157	-	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	196	177	19件減	250	国内第2位を上回る数値	70.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						数値の公表時期の関係により、評価は暫定値で行い、前回数値は実数に修正する。

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
c	b	b